



令和7年度 観音寺市立大野原小学校 学校だより

心地よい声と音が響く学校に



令和8年2月2日（月）

新児童会役員を中心に5年生が学校の顔！

1月28（水）朝、全校集会にて児童会役員の引継ぎ式を行いました。今回の学校だよりでは、その時に私大森から子どもたちに伝えた言葉を掲載させていただきます。



まず、6年生の児童会役員のみなさん、そして6年生全員にお礼を伝えます。1年間大野原小学校の顔として、たくさんの活躍、本当にありがとうございました。思い返せば4月7日の新任式、私がみなさんと初めて顔合わせをした日、あいさつをして歓迎の言葉をいただきましたね。あれが、私が確認した大野原小学校児童会のみなさんの活躍のスタートでした。月日が経つのは早いもので、あれから約10か月。運動会やなかよし集会をはじめ、たくさんの行事や集会で計画や準備をし、大野原小学校のみんなが楽しく学校生活が送れるように、役員のみなさんを中心に6年生全員で頑張ってきました。本当にありがとうございました。

話は変わりますが、私大森はスポーツの駅伝が好きです。駅伝は長い距離を走り、バトンの代わりの「襷（たすき）」をつなぎます。その区間その区間で、前の選手を追い抜いた、とか、後ろから来た選手に抜かれた、など勝負にこだわるところも見どころの一つですが、私は駅伝の素晴らしいところは順位を競うことだけではなくて、それとは異なるところだと考えています。

それは「つなぐ」ということです。自分より前を走ってきた、苦しい思いをしながらも精一杯頑張ってくれた選手の「頼んだぞ」の気持ちがこもった「たすき」を託され、自分も一生懸命走る。苦しくても、たとえ転んだとしても立ち上がり前に向かって走る。それは何のためか、自分の襷（たすき）を待っている仲間がいるから。その襷（たすき）を自分の順番でストップさせてはいけない。自分に与えられた責任と信頼、そしてチームの団結心も次の走者に引き継ぎ、襷（たすき）を前につなぐ、前に託す。これが一番大きな素晴らしいところだと考えます。

先週の演説会にて、自分の言葉でこれから頑張る気持ちを伝えてくれた新児童会役員のみなさん、今日この瞬間に6年生たちから「襷（たすき）」を託されました。みなさんに、責任と信頼、そして大野原小学校の団結心が託されました。これからは大野原小学校の代表、顔として、襷（たすき）を次へ次へと進めてください。顔であることの、またあり続けることの喜びと大変さを同時に味わうことになりますが、6年生の素晴らしい活躍に敬意を表しつつ、5年生は5年生らしく、5年生のこのメンバーでしかできない、これからの大野原小学校をもっともっと素晴らしい小学校にしたいと心から願っています。

